進捗状況の概要（１ページ以内）

本事業では、1）高校-大学-大学院の壁を下げることで秀でた学生の修学をさらに高めると共に、2）個々の学生が修学カラーマップと StepGPA を活用して、個々の学力の特性を知り、自ら学んでいくシステムを作る、の 2 つを通して、ヒト-動物-環境の共生の未来を担う人材を育てる。また、その実施状況の周知ならびに、実施体制、評価体制を整えた。令和 4 年度までに、以下のとおり実施した。

1）高校-大学-大学院の修学をシームレスにし、秀でた学生の修学をさらに高める

◆ 大学院講義を学部時代に履修できる早期履修制度を開始した。初年度の令和 4 年度は 12 名（内、7 名が本事業プログラム受入学生）の学部学生が早期履修に登録した。
この内 10 名（内、7 名が本事業プログラム受入学生）が、令和 5 年度から大学院に進学し、シームレスな修学を継続することになった。

◆ プログラム関連科目のオンライン、オンデマンド配信を可能とする LMS を独自に開発、修学トラジェクトリーの機能を実装し、デモデータを用いた検証を継続して実施した。

◆ 令和 4 年度は学部横断的研究プロジェクト、ならびに幅広い学びを得るためのジェネプロ研究プロジェクトを 31 課題スタートさせ、118 名の学生が研究を開始した。

◆ 学外実践研究の場として、宮城県金華山、島根県美郷町の現地調査と実践研究・実習を実施した。

◆ 高校生から参加できる「いのちと共生の研究プログラム」において、3 校・31 名の高校生が本プログラムを体験した。3 月にはジェネプロ研究プロジェクトに参加している本学学生と高校生の合同の成果発表会や意見交換会を企画し、高校-大学の垣根を越えた取組を実施した。また、1 校・6 名が宮城県金華山でのプログラムに参加した。本プログラムに関連して、4 校との間で高大接続の協定を締結した。さらに、令和 5 年度から高校生が大学の講義を受講できるよう先取り履修制度を整えた。

2）修学カラーマップと StepGPA を活用し、個々の学生が自ら学んでいくシステムの提供

学生自身の中での「出る杭」を可視化させるため、修学カラーマップと StepGPA を LMS に実装した。

◆ 教学 IR センターを設置し導入した新規 LMS の機能の拡充として、修学状態の解析を可能とする Learning Analytics を実装し、実データを増やし本格的に稼働した。

◆ 全学科学生を対象にサイエンスリテラシーとコンピテンシーテストを実施し、結果を個々の学生にフィードバックした。過去に当該テストを受験した学生には、過去の結果と合わせてフィードバックし、成長を実感する機会を与えるとともに、修学意欲の向上につなげた。

マネジメント体制、実施体制

◆ 令和 3 年度に立ち上げた麻布大学大学教育推進機構（教学 IR センター、データサイエンスセンター、教育方法開発センターを含む 4 つのセンターからなる）において、学内の教学マネジメントを一元管理し、迅速かつ有機的な活動支援を行っている。

◆ 教学 IR センターでは、本事業において学生の学びの可視化ならびに個別修学体制を整えるべく修学データの把握のための基盤を整理し継続して運用している。

◆ 金沢大学前学長の山崎光悦先生、教職員支援機構理事長の荒瀬克己先生を招聘して SD 研修会を実施した。また、教育改善のため、教学 IR センターによる学内 SD 研修会を実施した。

◆ 令和 3 年度の本事業の諸活動について、外部評価員 2 名の先生に講評をいただき、改善を図った。令和 4 年度事業活動についても同様に外部評価を行い改善に努める。

事業の可視化、社会との接点

◆ 専用 WEB サイトをリニューアルし、一般にも親しみやすい内容に再構築した。また、中高校生への周知強化のために、本プログラム専用の Instagram を開設した。さらに、プログラム冊子を印刷し、来校者と WEB からの希望者に対して配布した。

◆ 協定校や指定校を始めとする高校への説明を継続して実施し、本プログラムの概要を伝達した。